第１章

ギャンブル依存症とは？

1　ギャンブル依存症の実態

ギャンブル依存症を「診る」難しさ

ふつう、病院にかかると、腫瘍があるから「がん」、骨が折れているから「骨折」というように、問題が存在するか/しないかによって、病気や怪我の有無を判断してもらうことができます。ただし、精神科・心療内科だけは、そういうわけにはいきません。精神科や心療内科で扱う問題は、内科や外科で扱うそれのように「病気の人」と「そうでない人」の線引きがはっきりできるものではないのです。精神疾患は往々にして、客観的事実だけでなく、本人（あるいは周囲の人々）の困りや、置かれた環境の違いといった事例性を排除しては検討しようのないものだからです。ことにギャンブル依存症に関しては、そうした傾向が強く、境界が非常に曖昧な印象を受けます。

たとえば、ギャンブルに月100万円費やすAさんとBさんがいたとします。Aさんは年収1億円の大富豪で、毎月100万円以上使うことは絶対にありません。一方Bさんは月収30万円。毎月消費者金融に借金をしてギャンブル資金を捻出し、ギャンブルで借金返済を試みていますが、返済目途は立っておらず、見かねた奥さん

JCOPY 498-12976

に先日離婚話を切りだされたばかり、という状況です。使っている額は同じ100万円でも、AさんとBさんにとって100万円の価値が違うことは明らかで、ギャンブルによる困り感にも雲泥の差がありそうだと想像がつくのではないでしょうか？（Aさんに関しては、そもそも困っていなさそうですね）

このように、客観的事実だけにとらわれず、各事例に個別の詳細な状況を踏まえ、重症度や必要なアプローチを見立てなければいけないところが、ギャンブル依存症の難しさだといえます。

本書では、こうした捉えどころのないギャンブル依存症を、実際の事例や、現場の臨床感覚を踏まえ、紐解いていきたいと思います。ですがその前に、まずは精神医学的観点からギャンブル依存症がどう定義されているのかみていきましょう。

ギャンブル依存症の定義

ギャンブル依存症の診断基準としてよく用いられるものに、以下の3つがあります。

・アメリカ精神医学会による『精神疾患の診断と統計マニュアル第5版　』（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders：DSM-5

・アメリカのサウスオークス財団によるサウスオークス・ギャンブル・スクリーン（SOGS）

・ギャンブラーズ・アノニマス（GA）による20の質問

それぞれについて詳しくみてみましょう。

1. DSM-5

DSMはギャンブル依存症に限らず、日本における精神疾患の診断の際にもっともよく使用されているマニュアルの一つです。最新版のDSM-5では、ギャンブル依存症の特徴を示す9項目のうち、4つ以上に当てはまること（基準A）、そして「その賭博行為は、躁

表 1　DSM-5 によるギャンブル障害の診断基準

A. 臨床的に意味のある機能障害または苦痛を引き起こすに至る持続的かつ反復性の問題賭博行為で、その人が過去 12 カ月間に以下のうち 4 つ（またはそれ以上）を示している。
（1）興奮を得たいがために、掛け金の額を増やし賭博をする欲求。
（2）賭博をするのを中断したり、または中止したりすると落ち着かなくなる。またはいらだつ。
（3）賭博をするのを制限する、減らす、または中止したりするなどの努力を繰り返し成功しなかったことがある。
（4）しばしば賭博に心を奪われている（例：過去の賭博体験を再体験すること、ハンディをつけること、または次の賭けの計画を立てること、賭博をするための金銭を得る方法を考えること、を絶えず考えている）。
（5）苦痛の気分（例：無気力、罪悪感、不安、抑うつ）のときに、賭博をすることが多い。
（6）賭博で金をすった後、別の日にそれを取り戻しに帰ってくることが多い（失った金を“深追いする”）。
（7）賭博へののめり込みを隠すために、嘘をつく。
（8）賭博のために、重要な人間関係、仕事、教育、または職業上の機会を危険にさらし、または失ったことがある。
（9）賭博によって引き起こされた絶望的な経済状態を免れるために、他人に金を出してくれるよう頼む。

B. その賭博行為は、躁病エピソードではうまく説明されない。

ギャンブル障害の程度は……

軽度：4〜5 項目の基準に当てはまる。
中等度：6〜7 項目の基準に当てはまる。
重度：8〜9 項目の基準に当てはまる。

（日本精神学会監修，高橋三郎・大野　裕監訳，染矢俊幸・神庭重信・尾崎紀夫，三村　將，村井俊哉翻訳．DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引．東京：医学書院，2014．を基に作成）

病エピソードではうまく説明されないこと」（基準 B）を両方同時に満たす場合、「ギャンブル障害」と診断されます（表 1）。基準 B は平たくいうと、躁状態の時にだけギャンブルにハマりこむ場合

JCOPY 498-12976

は、躁や躁うつが問題の根本にあると考えられるので、ギャンブル障害の診断はつきません、ということです。

2. SOGS

2つ目の診断基準は、ギャンブル依存症治療で成果を上げているサウスオークス財団が開発したSOGSの邦訳版です（表2）。

採点基準に基づき、5点以上のものを「ギャンブル障害」、3点ないし4点のものは将来ギャンブル依存症になる危険性の高い「問題賭博者」としています。DSMは専門家のための診断書ですが、SOGSと次に紹介するGAの20の質問は、記入式で当事者の方に直接回答を求めることができます。それを専門家が採点し、診断の参考にするというわけです。SOGSは、3つの診断基準の中でも、借金に重点をおいた質問で構成されているという特徴があります。

3. GAの20の質問

最後にご紹介するのが、ギャンブラーズ・アノニマス（GA）という当事者による自助グループが作成した20の質問です（表3）。

いずれの質問にもはい/いいえの二択で答えるようにできており、はいが7項目以上あると「強迫的ギャンブラー」であると診断されます。この質問表の特徴は、すべての質問が「～がありましたか？」といった過去形で表記されている点です。ギャンブル依存症が、他の疾患と異なる最大のポイントのひとつが「現在症状（問題行動）がみられない＝治癒ではない」というところです（この点については「第4章　ギャンブル依存症の克服」で詳しく解説します）。そのため、現時点だけでなく、過去に強迫的ギャンブラーといえる要素がなかったか検証できるところが、GAの20の質問の優れた点であるといえます。

なお、診断名にいまだ統一名称がないことを踏まえ、本書では「ギャンブル障害」を、みなさんに馴染みの深い「ギャンブル依存症」、「病的賭博者」、「強迫的ギャンブラー」を「ギャンブル依存症

JCOPY 498-12976

表２　SOGS によるギャンブル障害の診断基準

1. ギャンブルで負けたとき、負けた分を取り返そうとして別の日にまたギャンブルをしたか。【選択肢 a．しない、b．２回に１回はする、c．たいていそうする、d．いつもそうする（c または d を選択すると１点）】
2. ギャンブルで負けたときも、勝っていると嘘をついたことがあるか。【選択肢 a．ない、b．半分はそうする、c．たいていそうする（b または c を選択すると１点）】
3. ギャンブルのために何か問題が生じたことがあるか。【選択肢 a．ない、b．以前はあったが今はない、c．ある（b または c を選択すると１点）】
4. 自分がしようと思った以上にギャンブルにはまったことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
5. ギャンブルのために人から非難を受けたことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
6. 自分のギャンブル癖やその結果生じた事柄に対して、悪いなと感じたことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
7. ギャンブルをやめようと思っても、不可能だと感じたことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
8. ギャンブルの証拠となる券などを、家族の目に触れぬように隠したことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
9. ギャンブルに使う金に関して、家族と口論になったことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
10. 借りた金をギャンブルに使ってしまい、返せなくなったことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
11. ギャンブルのために、仕事や学業をさぼったことがあるか。【選択肢 a．ある、b．ない（a を選択すると１点）】
12. ギャンブルに使う金はどのようにして作ったか。またどのようにして借金をしたか。当てはまるものに何個でも○をつける。【選択肢 a．生活費を削って、b．配偶者から、c．親類、知人から、d．銀行から、e．定期預金の解約、f．保険の解約、g．家財を売ったり質に入れて、h．消費者金融から、i．ヤミ金融から（○１個につき１点）】

（箒木蓬生．ギャンブル依存症とたたかう．東京：新潮社，2004．p36-38.）

JCOPY 498-12976